

中山間地域における水田の耕作放棄の実態とその要因

岩本健郎・倉知哲朗¹⁾(熊本県上益城農業改良普及センター・¹⁾九州農業試験場)

Kenro IWAMOTO and Tetsuro KURACHI : Factors related to Abandonment of Paddy-field in Mountain Regions

1. はじめに

近年、中山間地域では、過疎化や担い手の高齢化等で耕作放棄地や不作付農地が増加している。

このような状況の中で、農業生産力の低下はもちろん、従来、農地が果たしてきた環境保全機能の低下も懸念され、その保全と利用は重要な課題となっている。

本稿では、熊本県の典型的な中山間地域である清和村朝日地区を対象にした農家(非農家を含む)アンケートに基づき、水田の耕作放棄の実態とその要因について検討した。

2. 朝日地区の農業概況と分析対象農家

朝日地区は、標高400～800mに広がる丘陵地帯に位置し、経営耕地は水田297ha、普通畑258ha、樹園地45haである。農家戸数は362戸(農家率63%)であり、そのうち専業農家が118戸(33%)、1兼農家99戸(27%)、2兼農家145戸(40%)となっており、専業農家率は村内でも高い。経営類型は水稻+野菜(トマト・ピーマン等)に、椎茸または肉用牛を組み合わせた類型が中心となっている。水田の区画整備はおこなわれており、区画整備済み水田は水田面積の23.7%にあたる71haにすぎない。

今回、分析の対象とした農家および非農家は朝日地区(回収不能の1集落を除いた12集落)の、水田を経営耕地に持つ農家・非農家と耕作放棄田を持つ農家・非農家を合計した296戸である。これは、水田営農活性化対策対象農家の81%にあたる。

3. 水田の耕作放棄の実態

「水田の放棄地がある」と回答した農家(非農家を含む、以下同じ)は、朝日地区全体で66戸あり、分析対象農家の22.2%であった。また、放棄地面積は9.1haであり、分析対象農家の水田面積(経営耕地+放棄地面積)の3.5%、放棄地のある農家の水田面積の15.6%を占めていた。

耕作放棄地率を集落別、農家属性別に検討すると、耕作放棄地率は、集落別では0.4～15.2%の範囲でかなりの差があり、集落ごとの経営水田率との間に負の相関が認められ、また平成6年度水田転作率との間には正の相関が認められた。耕作放棄地率は、農家属性別には集落別ほど差はみられなかったものの、経営主年齢階層別では50歳階層以上から高齢になるほど、専業別では兼業が進むほど、水田経営耕地規模階層別では小規模になるほど高くなる傾向がみられた。

次に、今回の分析対象農家(非農家を含む)から経営

耕地10a未満の非農家を除いて、水田と普通畑、それに樹園地の耕作放棄の面積を集計した結果では、耕作放棄農家率が23.1%、耕作放棄地率が2.3%であり、1990年センサスの結果(耕作放棄農家率10.6%、耕作放棄地率1.5%)に比較していずれも大幅に増加している。また、アンケートでは、耕作放棄の実態だけでなく今後の動向についても併せて調査をした。それによると、将来、地域で耕作放棄地が増加すると回答した農家は71.0%と高い比率を示した。

4. 水田の耕作放棄の要因

放棄地があると回答した農家66戸が指摘した主要な放棄理由(複数回答)は、「農道未整備」(回答農家66戸に占める割合37.9%)、「水稻の減反」(34.8%)、「用排水路未整備」(18.2%)、「区画未整備」(15.2%)などである。

農地基盤に関する要因は、全体の47.0%の農家が放棄理由としてあげており、その割合は高い。

なお、地区全体で高率が予想された「高齢化」、「後継者不在」はそれぞれ12.1%と9.1%でそれほど高くなく、今のところ水稻を栽培する程度の労働力は確保されているといえる。

しかし、将来、放棄地の増加を予想する農家211戸の放棄地増加予想理由(複数回答)では、現況の放棄理由と異なり、「高齢化」(回答農家211戸に占める割合79.1%)、次いで「後継者不在」(65.9%)、「農道未整備」(27.5%)、「農業の将来が不安」(25.1%)、「区画未整備」(23.2%)となっており、担い手不足の問題をあげる農家割合が高くなっている。

5. まとめ

調査に当たっては、高齢化や後継者不在等の担い手不足問題が耕作放棄の大きな要因であると予想された。しかし、調査結果の経営主の年齢階層別割合をみると、40歳代(38.8%)、50歳代(23.7%)が多く、専業としての労働力が確保されていなくても管理可能な水稻栽培においては、現段階では担い手不足が大きな問題とはなっていない。耕作放棄理由からわかるように、経営水田の中から農地基盤条件の悪い圃場を選択的に耕作放棄している段階にあるといえる。

しかし、今後は放棄地増加予想理由にあるように「高齢化」、「後継者不在」、「兼業化」といった担い手不足により、営農不可能な農家の増加が予想される。こうした農家の水田の耕作放棄をいかに抑えるかが当面の課題である。